

解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（13・上）

—— 夫熙錫さんへのインタビュー記録 ——

藤永 壯／高 正子／伊地知紀子／鄭 雅英／皇甫佳英
高村竜平／村上尚子／福本 拓／高 誠晩

A Survey of the Life Histories of Resident Koreans in Japan
from Jeju Island in the Immediate Postwar Period (13) — Part I —
— An Interview with Boo Huesuk —

FUJINAGA Takeshi, KO Jeongja, IJICHI Noriko, CHUNG Ahyoung
HWANGBO Kayoung, TAKAMURA Ryohei, MURAKAMI Naoko
FUKUMOTO Taku, KOH Sungman

本稿は、在日の済州島出身者の方に、解放直後の生活体験を伺うインタビュー調査の第13回報告である。この調査の目的や方法などは、「解放直後・在日済州島出身者の生活史調査（1・上）」『大阪産業大学論集 人文科学編』第102号（2000年10月）に掲載しているので、ご参照いただきたい。

今回の記録は、東京都江戸川区在住の夫熙錫さんのお話をまとめたものである。夫熙錫さんは1935年、済州島朝天面咸德里（現・済州特別自治道済州市朝天邑咸德里）のお生まれである。

インタビューは2009年7月19日、東京都江戸川区の「江戸川同胞生活総合センター」で、藤永壯・高正子・伊地知紀子・鄭雅英・皇甫佳英・高村竜平・村上尚子・高誠晩の8名が聞き手となって実施した。テープから起こした原稿は高正子を中心となって編集し、用語解説は鄭雅英が、参考地図の作成は福本が、最終チェックを藤永が担当して完成させた。

以下、本稿の凡例的事項を箇条書きにしておく。

- (1) 本文中、文脈からの推測が難しく誤解が発生しそうな場合や、補助的な解説が必要な場合は、[] で説明を挿入した。
- (2) とくに重要な歴史用語などには初出の際*を付し、本文の終わりに解説を載せた。第4～

10 回報告で解説した用語については、丸数字で報告番号を、アラビア数字で注番号を記し、かっこでくくった（例：(④- * 13) は第 4 回報告の * 13 をあらわす）。また、2000～2001 年の第 1 回から第 3 回の報告でとりあげた用語は「(再掲)」と記して解説した。

- (3) 朝鮮語で語られた言葉が文の場合は日本語に翻訳し、下線を施した。その際、日本語の単語が混じる場合はカタカナで表記し、[] で意味を補った。また日本語の文脈で朝鮮語の単語が混じる場合は、一般的な単語や地名などは漢字やカタカナ、あるいは日本語の翻訳語で、特殊な単語についてはハングルで表記し、発音を日本語のルビで示した。
- (4) インタビューの際に生じたインタビュー側^の笑い^や驚き^{などの}反応^{については}、〈 〉で挿入した。
- (5) 話者が語った日本語・朝鮮語は、話者の発音どおりに表記することを基本としたため、いわゆる「標準語」とは異なる場合がある。

なお本稿は言うまでもなく、夫熙錫さんの証言からとくに重要と思われる箇所を中心に抜粋、編集したものである。できるだけ客観性に配慮しつつ証言を再現しようと努めたが、編集の手が入っている以上、叙述に編者の主観が反映されている可能性は排除できない。本稿の内容に関する責任は全面的に編者にあることを、あらかじめおことわりしておく。

済州島から日本へ

《済州島に生まれて》

——夫さん、何年生まれですか。

夫：あの、恥ずかしながら、昭和20年って言ったら笑われるけれど、昭和10年です。

——10年、ですよ。いやあ、1935年（笑）。どちらのお生まれになります？

夫：あの昔は産婆とか、今みたいにその医療機関がなくて。まあ、僕のお父さんとお母さんが好きになって、お腹に僕がおったらしいんですよ。それでその、その時は大阪府堺市の神石で [母は妊娠したが]、産める状態じゃないから。その、植民地当時でしょ。

それでやむ得なし、[母は] 済州島 [へ帰った]。その時は全羅南道済州島です。あの、
チョンチョンミョン
 済州島、朝天面。

——チョンチョンミョン
 朝天面。

夫：ハムドンニ 咸德里。イルサバルサ 1484番地で、生まれたことになります〈一同：へえー〉。

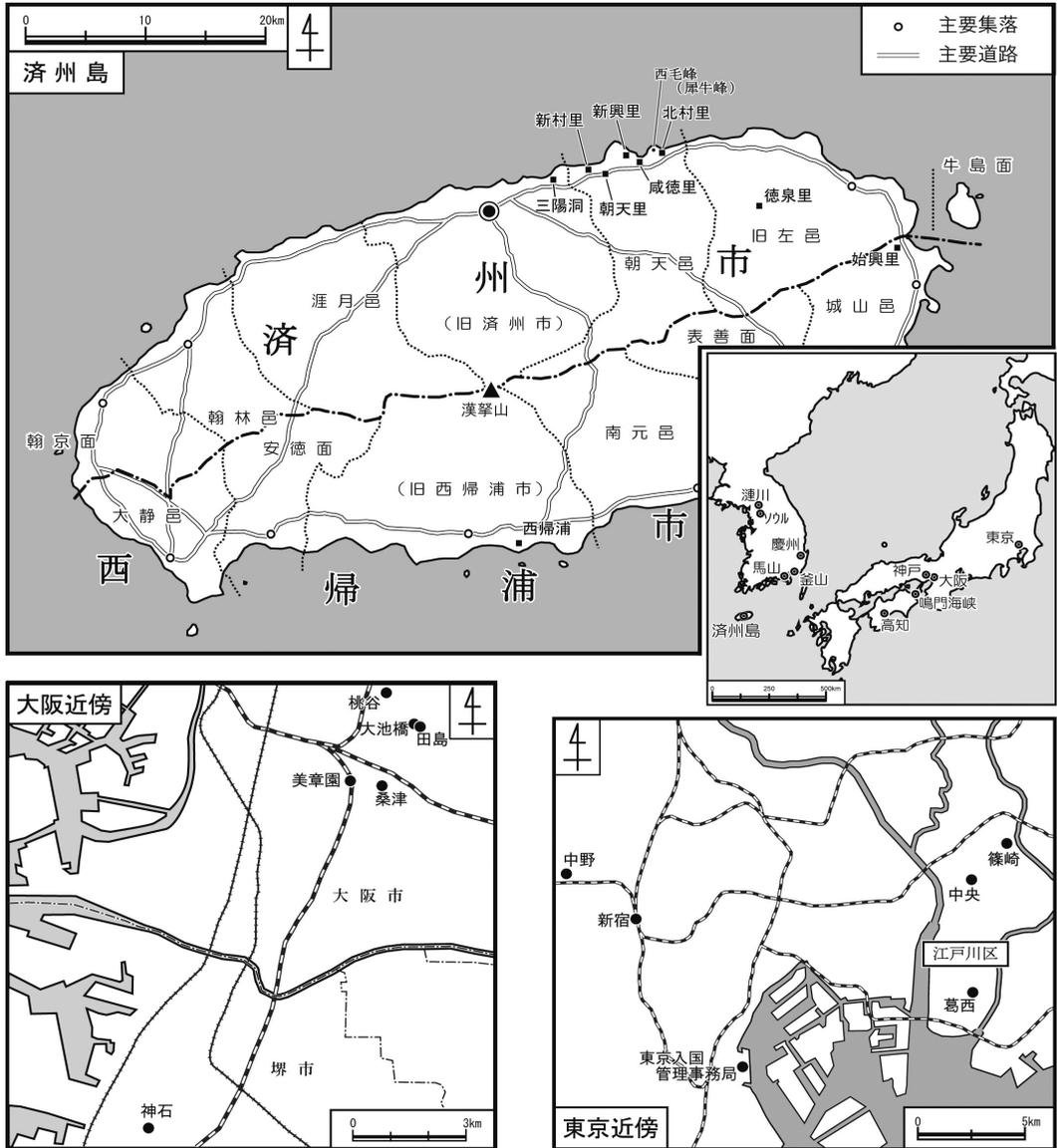


図1 本稿関係地図

—それはじゃあ、お父さんのご実家ということですか？

夫：[父の実家]は、旧左面、徳泉里という山間部落です。[4・3の事件の時に]丸焼けになりました。

—あの、お母さんは？

夫：お母さんは咸徳。それでやむ得なし、お母さんの方で生活をするようになって。5歳

の記憶があるのは植民地当時、お母さんに連れられて、その時、連絡船で日本に来たと
思います。

《日本での生活》

——君が代丸^(6)*14)のこと？

夫：君が代丸です。それに乗って、お父さんを訪ねたらしいんです。

——ああ、じゃあ、お父さんは大阪？

夫：大阪におったんです。で、その時の状況はよく、記憶がないんですけど、お父さんと会っ
て、堺市に。あの、なんか電車で揺られた、5つの時に、ちょっと頭に記憶は残ってます。

——ああ、生まれた後に。じゃあお母さんだけ？

夫：そうです。[母だけが] 向こう [濟州島に私を] 産みに [帰って]。それで、お父さん
という存在は5つまでは知らなかった。情が全然ないんです。親子なのに連れ子扱いさ
れました。

——お父さんはじゃあ、大阪の堺でどういうお仕事をされていたんですか？

夫：まあ、記憶がちよつとないんですけど。どっか出勤なさりながら、長屋であの、焚物
の何か、今みたいに電気釜があるもんでもないし。その、田舎ですから、その辺のその
山で拾ってきた薪とか、水道がないもんで、その井戸を利用して水を汲んだりした記憶
が残ってます。

——ああ、周りいっぱい山があるようなところですか？

夫：そうです。山がありまして。その、どれぐらい行ったらあるのか。今も鳳というところ
がありますね。堺市の神石は東方にあったと思います。私は早生まれで昭和9年生まれと、
学年が一緒に小学校に入学したんですけど、その時、朝鮮人だと言って、だいぶんその
学校でもいじめられました。なんか悪いことしたのは、みんなもう朝鮮人。よくご存知と
思いますが、朝鮮人は臭い、悪いものは[朝鮮人]。ここに、僕らの、ちよつと『日本の
進路』[「自主・平和・民主のための広範な国民連合」機関誌]という月刊誌に、その
ようなことを書きましたけど、ひどい差別を受けました、その時ね。山で軍隊らが
そこで訓練をするのも、ちよつと見た記憶がありました。私は3学年当時と思います。

このような時に、生活余裕があるのか、大阪に移ったんですよね。

——市内に？ 街に？

夫：ええ。大阪市住吉区桑津町〔現・東住吉区〕というところですよ。そこには、え、隣はなんか百済と言って、百済と呼ぶ、その町の名前もありましたし^{*1}。

そして、3年生ですか、の時に、桑津国民学校に入りましても、いじめと差別はありましたね。まあ、教育上の問題ですから、これは。時代とともに、理解しますが。あの時ね、日本があたのシンガポール陥落とか〔1942年2月〕。夜〔に〕になったら、提灯行列をしたり、毎夜動員されました。南方で日本軍が「勝った、勝った」としてゴムボールをもらった記憶があります。子どもたちに。

——誰がくれるんですか？

夫：その、国が。お土産で、あゝの〈一同：へえー〉。陥落、シンガポールを陥落したという事で、子どもら、みんなにひとつずつもらいました。その記憶があります。まあ、小学校4年だから、だいたい記憶ありますけど。

まあ、そこで、あゝの、紙でつくった日の丸の旗を持って、万歳、万歳しながら、「日本が勝った、勝った」と振った旗を机の下に置いたんですね。それで、僕はなんとなく、こう、引っ張ったら、紙で作った日の丸の旗が破れちゃったんですよね。そしたら、隣の子が朝鮮人の子が日の丸を破ったとして、先生に言うのです。今もその先生の担任の先生の名を忘れませんけど、小西という先生が「お前、朝鮮人出て来い」と。もう鼻血が出るぐらいに〈一同：ああ〉、殴られて、服が真っ赤になったんです。それでも、家帰って「どうしたの？」と聞くと、言わなかったんです。あゝの、学校の先生に殴られて。このような事実を言わなかった。そんな歴史もあります。そして、日本が空襲でだゝいぶ危なくなつて。僕、住んでる横が、美章園〔現・JR 阪和線〕という駅がありました。

済州島へ帰って

《済州島への疎開》

——美章園、ありますよね。

夫：あゝの、駅があつたんですよ。その駅が、まともに爆弾が、受けて破壊され¹⁾。僕らは

1) 1945年2月14日のアメリカ軍による空襲で、大阪市阿倍野区の国鉄阪和線美章園駅の鉄筋コンクリー

その時防空壕、ここに隠れたり。風呂も入れないし、しらみが湧くし、夜も服を着たまま寝たり。空襲が毎日毎晩でした。どうしようも生活が危ない。国に帰れと。その時、君が代丸が最後の航海だったんです。お前ら危ないから、とりあえず身だけ^{さいしゅうとう}濟州島に。帰ってみたら、何もないんですよ。朝天^{チョチョン}、ご存知ですか。

—はい。

夫^{チョチョン}：朝天の港に着きました。君が代丸は島を1周するんですね、各港に。そうやって荷物降ろしたり、人を積んだりして、大阪港に帰ってくるんですね。とりあえず、着の[身着]ま^{さいしゅうとう}ま濟州島に行きました。お母さんと。

—お父さんは？

夫：自分の財産が〈一同：ああ〉、ここに住まいがあるから、後で送ってやると。次の船に送るから、あの、体だけ、とりあえず行きなさい、ということで。あの、行ったんですけど、行くところがないんですよ。そしてお母さんの方に世話になったんですけど。こんなこと言って理解できるでしょうか。まあ、お母さんの親戚のおばあさんが、ああよく来たよ。そして出してくれるのが、粟のご飯を。日本で粟の飯って、見たことないんですよ。鳥の餌しか考えなかったものが。そして、魚、海で取れた魚を。これが、ごちそうなんです。食べられないですよ、10歳かそこそこの歳で。いくらお腹空いても、喉が通らない。それでも、生きるために、何でも食わなきゃならない。

そして、まあ、その時、咸徳^{ハムドク}国民学校というのがありまして、入学しました。4年生だったと思うんです。そうしたら、あの、先生もみなさんご存知のように、沖縄戦がありましたね。そして、日本は内地を防衛するために沖縄陥落したら、濟州島^{さいしゅうとう}を第2防衛線^(10)*3)にしたわけ。そうして関東軍、あの、満洲にソ連を、と対峙しておった軍111、ああ、111と112師団を濟州島に送った。そうして日本におった、え、92師団と混成師団なんですけど、約8万以上の兵隊が濟州島に流れてきましたし。中国本土を攻撃するために、西帰浦^{ソギポ}ってご存知でしょうか？

—はい。

夫^{ソギポ}：西帰浦のところに、飛行場を秘密に作ったんです^(6)*3)、中国を攻撃のため。そして、島民がその時20万足らずの人口でしたけど、10万近く日本軍で増えまして、住まいが

ト橋脚が粉碎され、付近の民家20余戸も破壊、30余名の死傷者が出た。1951年8月、当時の国鉄駅職員により「遭難供養之碑」が建てられている。

ないから、住民の家を占領したりしたんです。学校はみんな兵隊が住むように占領し、勉強するところがないんです。あの、ワラビ。

——ワラビ？

夫：春 [に] になったら、その、牧場。さっきもあの申しましたけど、昔 [高麗時代]、モンゴルに支配された時にモンゴルの馬がいっぱいそこに来て、育って。その、馬、小っちゃいんですよね。^{さいしゅうとう}済州島行ってご存知のように、おとなしいし、まじめだし、よく働くんですけど。

そして、その牧場でワラビを取るし、各家庭にある^{チェサ}祭祀用品を全部出させて。そこには済州島は火山地帯ですから、あの、米が採れないんですよ。山に採れる^{サンドウ}山稻という米があるが、その、採ったら粘りがいいし、赤いんですよ、米でも。そして挽いてもその、今日本では、あの、新潟の米、ササニシキとか、いろんな美味しい米がいっぱいあるんですけど、その時はその米というのは食べられなかったんです。そうして済州島で、あのご存知のように白いご飯といったら^{コンバブ}コンバブと言って、^{コ ウン}고운 [きれい] ね。콘밥 [きれいなご飯] と言います、ね。白い、あの先祖の命日だけ、^{チェサ}祭祀、法事の時だけ米のご飯を食べたことがあります。また、家庭には黒豚^(⑩- *1) があります。各家の便所には黒豚いて、人間が出したものを豚が食べてくれるんですよ。まあ肉は美味しいんですけど。

そんな生活の中で軍国教育ばっかしでしたから。絶対日本が負けないと。そうして毎日、神社参拝。各家には、その、神棚をつくって。日本が戦争に勝つように祈りました。そして^{さいしゅうとう}済州島の生活というものは寒い時には、オンドル部屋があるんですよ。そこで部落の13, 4, 5, 6歳の嫁に行く前の女の子らが、収入を得るために、^{クンボン}宕巾 [官職者が^{マンゴン}網巾 (髪留め) の上に被る帽子で、外出時はさらに^{カッ}갓というつばのある帽子を被った。済州島の女性たちが馬の尻尾の毛で編んだ]、あの頭に被るその、^{カッ}갓と言うんです。が、^{カッ}갓、分かりますかね。

——はい。

夫：それをこう、馬のしっぽの毛ですよ。針を通して、こう型にはめて編んでいくんですよ。そんな中で、慰安婦という名目じゃなくて、挺身隊として日本軍が5, 6人ずつ集まって、あの、^{カッ}갓をつくる女の子らをみんな捕まえていくんですよ。そして村の青年らがそれを、まあ、妨害したら、お前は、ね、あの、反国民だと。日本に忠誠を誓ってないやつ。挺身隊で行くんだと。それは、記録にはあんまり載ってません。^{ハムドク}咸徳で

も僕はよく見ました〈一同：へえー〉。

——日本に連れて行くんですか。

夫：日本にみんな連れて行くんですよ。それで僕自身はそこ〔濟州島〕で成長をしながら、日本が負けたと言うと、「負けてない」と言って威張りました。教育上の問題があったでしょう。そして家庭的には、^{コンチュル} 供出ってわかります？

——はい。供出ですね。

夫：そしたら畑で採れた麦とか粟とかその、いろんな採れたものは、ほとんど軍隊がみんな押収して行くんですよ。そしたら、みな隠すんですよ。そしたら鉄砲玉がないから先祖を祀るために、道具があるんですよ。あの、真鍮でしょうかね。あの、材料はよくわかりませんが、鉄砲玉に使うやつを。全部それを日本軍が押収していきました。

——日本軍が直接家に来て持っていきました？

夫：そうです、そうそう。いや。日本人も、お、おる、警察もおる。そこに協力する、地元の間人。そして、あの、生活がだいぶ苦しいし、年寄りらをトーチカつくるのに動員されました。^{ハムドク} ^{ソモボン} (犀牛峰) と、あると思いますよ。^{ソモボン} 西毛峰、あの東側行ってみたら、^{ブクチョンリ} 北村里って、4・3事件で全滅された部落^(①-＊6)の方に行ったら、今もトーチカつってあります。コンクリートでやってるから、何十年ももつでしょう。しっかりした、あの大砲を、米軍がきたら、攻撃するためにつくったトーチカでしょう。ほかの山にもいっぱいありますよ。

僕もそこ何回も行ったり、つくるために地元の者〔を〕動員して、山にある木を切って。それ、今度のはついで。トラックがあるもんでもないし、ほんと情けない、その、環境でした。原始的な生活²⁾の中で。そして、電気というものはないんです。水道もないんです。そして濟州出身だったらご存知のように、女の人らが^{ホボク} ^{ハングアリ} [水汲み用の甕] で、湧き水を海岸べり行ってから自分で汲むんですよ。そしてあの、炊事場に^{ハングアリ} [貯蔵用の甕] として。

——はい。ここ〔항아리〕に〔水を〕入れて。

2) 夫さんによれば、当時は家がないため、代わりに山中で石を積み上げて四方を囲い、屋根代わりに藁を被せ寝場所を作った。濟州島の藁は麦など雑穀の貧弱なもので風で飛ばされ、さらに積んだ石の間から風や雨が入ってくるような生活だったという（2013年2月8日、本人に確認）。

夫：항아리。そこに、籠のまま、こう横にして、水を貯めておく。その水が巡回してね、今みたいにその衛生的にじゃなく、その水の中に虫がいっぱい湧いているんですよね。それでも、みんな飲んで、結局호열자 [コレラ] といって、まあ結局、その時で [済州島全体で] 6000 人近い人間が死にました⁽¹⁰⁻⁶⁾。

——それ、解放後のことじゃないですか？

夫：解放、解放後です。いや、まあ、ちょっと混同しちゃって申し訳ないです。

——トーチカ作ったり、山に木を切りに行ったりするのに、小学生も動員されるわけですか？

夫：そうです。僕らは、手伝うんですよ。その幼い力を、みな出し合って。そうして、その野原に、その、ワラビが出たら、それを、籠持って行って、みんな、採ってくるんですよ。そしていっぱい出てきたら、そこで、誰は、こう、成績をみなつくるんですよ（一同：ええー）。量をたくさん採るって。

——ああ、誰はどんだけ、誰はどんだけって？

夫：そしたら、구둑 [竹で編んだ大きめの籠] ってご存知ですか。籠で、あの、竹でつくった。[そこに入れると]ワラビがだんだん先にとれたやつがしおれて（一同：笑い）。しおれて、だんだん、だんだん、あの、あの籠いっぱいにならないんですよ。いくらやっても（一同：笑い）。だから、幼い子どもらが採るっていったら、採れます。大人が一生懸命採っても、籠いっぱいにはできないのに。そのような中で、お腹は空く。そして軍隊はまた軍隊で監視する。

——咸徳国民学校に日本軍が駐屯していた。解放後は日本軍に対して、済州島、咸徳の人たちは何も、日本軍にはやらなかった。

夫：あの、嫌がらせはしませんでしたよ。撤退するのは、これ、見えていますから。放っといたんです。そしたら、その時、日本軍がなん……どっちの部隊かは、それは、よく分かりませんが、あの、運動会をその。親善（一同：へえー）、日本と地元と親善会をするということで、運動会を開いたこともありました（一同：へえー）。

——それは、解放後ですか？

夫：解放後です。日本が負けた後です。米軍がその後、ああ、入ってきたんです。武装、

武装を解除すると。そんな状態の中で、治安というものが混乱するじゃないですか。そうするから、部落の、その青年団。また、外国から今まであの亡命しておった先輩方らがみな入ってきて、その、指導をしてきたんです。また、わが国の、民族が外国にまた支配された時には、このような苦勞を、僕ら生活が苦しくても、われらの力でやっぺいこうというのが、その、外国から帰ってきた先輩方らの指導だったんです。そこに僕自身も、まあ、なるほど。今まで日本軍、天皇陛下が。ね、神風特攻隊がもう、わが民族を助けられるんじゃないかなという教育ばっかしだったんですから、もう、「自然にウリナラわが国というのが歴史もあるし、文化もあるし、言葉もあるし、字もあるし。何でもあるんだ」と。「僕らの力がひとつになったら、力がひとつになったら、あの、よく住めるんだ」という教育のもとで僕自身もまあ、自然にそこに流れていったということです。

《解放後の濟州島の生活》

夫：まあ、日本にその協力した部落に、その地元の人らも結構いました。そして解放がされたとした時に、^{ハムドク}咸徳でキム・ドンミョンって。あ、^{ハムドク}ハン・ドンミョンって青年です。親日派です。^{ハムドク}咸徳青年たちが連れ出して、殺しました〈一同：へえー〉。

——具体的にこの人は植民地期にどういうことをやって？

夫：ですから警察に協力したり、その、^{コンチュル}供出。^{コンチュル}供出とか、傭兵という名目で日本に人を送るのに協力したり、今言うたように若い女の子らが一生懸命固まって、やってるところに、どこでやってるから〈一同：ああー〉、ってスパイをしたり、そうして地元の住民をいじめたっということ、はっきりしたから。その、部落の青年らが、呼び出して、国民学校で、みんな武器があるもんでもないですよ。棒持って行って、「このやろ、よくもわれらを」〈一同：ああー〉。日本にね、協力して、あの、ぶん殴って、結局は死にました。あの、そんな事件が、あの、ちゃんと覚えてます。

そして、それから、ぐずぐず、ぐずぐず、問題がちょっと1947年度から。その、日本に協力した派と、外国で独立〔運動〕やっておったその島民、若い人ら。日本にも帰ったりした人ら。いっせいに解放されたとして、濟州島に帰ったんですよ。帰ったら人口が20万から20、30万以上*²。そうして、そこによって日本軍が、自分らが食料を貯めておったものを分配してくれたらいいんですけど、みんな燃やすんですよ。

——咸徳で燃やすの、見られたんですか。

夫：先輩が私に言いました。朝鮮人どうしのその運動会〔運動団体〕とか親睦会団体は絶対、許してくれなかったんです。その、反乱を起こすと。だから済州島は、いろいろその歴史がありますけど、その反乱が多いです、三別抄^{サンビョルチョ}*3の時でもそうだし、いろんなその、ちょっとしたことでも、みな愛国心と言うか。そんな、環境の中で住民はみな無知が多かったです。字を書けない人が多いんです。それで、僕らはちょっとでも分かったし、僕のそのいところになる先輩方らが僕に、徹底していろんなことを教えていたでいて、考えがどうしてもわが国を、独立をしなきゃなんない。外国の支配にいつまでもおったら、みんながだめになる。というその芽生えが、ちょっとずつ出てきて、そこで、指導してる先生方、亡くなって、〔今は〕いませんが、だいぶ教育がよかったというか、指導がよかったのか、僕自身も自分の名前を書いてビラ貼ってみたい。いろんなこと〈同：あー〉、やってみましたよ。

——どういう内容のことをビラに書かれました？

夫：強制、供出、強制供出させないようにしよう^{ウリヌン}*4。우리는、われらは、ね、あの、自主独立をしよう。

——それが47年ぐらい？

夫：え、48年、あの、解放されて。あ、あ、47年です。高学年でも僕らはちょっと変わった活動しました。

《中学校と少年団》

——朝天^{チョチョンチュンハッキョ}中学校では、何か団体、属されたり活動されたりは？

夫：いやそれが僕……、中学時代は、あの、これ言ったらちょっと政治的な話になっちゃうんですけど、海岸沿いに部落が5つあるんです。北村^{ブクチョン}、咸徳^{ハムドク}、新興^{シンフン}、朝天^{チョチョン}、そして、新村^{シンチョン}。新村^{シンチョン}に中学校があるんですよ。それで僕は咸徳^{ハムドク}から新村^{シンチョン}まで行くのに、約4キロ以上あるのかな。朝7時に起きて一生懸命9時まで、あの、通ったんです。あの、その前ですけど、4・3事件の時はいっせいに、山に烽火^{ボンファ}〔のろし〕が上がり^オが^ルって。そして、親日派の人々を連れ出して、刀で切りちぎって殺したとのことです。

——ちぎった？

夫：よっぽど恨みがあったからそうでしょう。殺しただけで、それで許さなかった。同じ

民族、あの同じ同胞、同じあの^{さいしゅうとう}濟州島の人間を、その親日派、李承晩^{チニルバ}に対してはもう徹底して、抵抗したんです。そして4月10日[5月10日の言い間違い]は選挙ができませんでした^(5)*5)。そして、僕も山に登ってその雨降り^{ナムノダン}のところで、あの日でしたけど、5月10日は、あの。5月10日は、雨降りだったんですけど、ジャングルみたいなところで、1日隠れた記憶があります。あの時は朝鮮では南労党^(12)*5)と北労党^{フクノダン}があったんですよね。今はもう労働党^{ノドンダン}ひとつになったんですけど³⁾。それでパク・チャンウ^{パクホニョン}[朴憲永の言い間違い]が、その時、南労党^{ナムノダン}党首だったんです。党首。それで、南労党^{ナムノダン}のことは絶対、僕らの神様みたいに、日本だったら帝国天皇の言葉は絶対というようだったんですけど。

僕は勉強のために^{ハムドク}威徳にいろいろなことがありました。警察を襲撃することも見だし、山へ連れて行って殺す^{チャンミヨン}場面、それ以外の^{チャンミヨン}場面も見ました。その4・3事件の日は見てないんですけど、僕ら小学校、今、国民学校ですよね。その国民学校らの学生らもひとつの団体が^{ムスンソニョンドン}あったんです。なんとか少年団として。

——少年団って言ってましたね。

夫：少年団として、僕らのその革命的な、その革命という字も知らなかったんですけど、その意味もよく分からなかったんですけど、そのようなことやりました。そして自分の教えの先生の、その家も襲撃しました。襲撃。行ってもう、机から何からみんな、取ってきました。取ってきて潰したり。

——なんで先生の家？

夫：それは、あの、李承晩の家来。ね、教育上その、労働者農民のを中心に教えなくって、資本家のことばっかり教えるということで、僕ら抵抗して。

——子ども、みなさん、みんなで話して？

夫：みんなで、そうして、僕らグループがとくに。その、気が弱い子らはそんなことしませんでしたけど。その時、僕ら1クラスは66人。2クラスに分かれても、60人。もう、くちゃくちゃですよ。その、今は30人クラスというんですけど、もう、その時はもう、詰めるだけ詰めて勉強さしましたから。まともな黒板があるもんでもないし、机があるもんでもないし。勉強したい人は、子ども、自分の弟を連れてきて、一緒に勉強したり。

3) 南朝鮮労働党(南労党)と北朝鮮労働党(北労党)は1949年6月30日に合党し、朝鮮労働党が成立した。

そんな学校、状態というものは、ただ勉強ということでしたから。

僕らもその時にそのようなことに、目が覚めたというんでしょうか。その、社会主義とか共産主義とかマルクス、レーニンがどんなもんかというね、分からなくて。ただ、朝鮮を統一した国につくらなきゃあかん。植民地化して、日本軍に今まで36年間、苦勞してきたのは、われらが無知だったから、ということで。その教えに関して抵抗を感じました、担任の先生に。担当した、自分の先生の家を襲撃したりしました。

—そうなんですか。

夫：そうです。そう、その人は、結局はみんなあの、李承晩のその、家来、討伐隊^{トボルテ}とか、警備隊^{キョンビデ}とか。その時は大韓民国という国がなかった時代。何も、国家というものはない時代ですから。それをみな、勘違いして朝鮮が解放した当時からもう、大韓民国という国ができたと思ってる人が多いんですよ。そうするからその時、李承晩がアメリカの力を借りて、あの。

—軍政ですからね。

夫：そうです。その先輩方らはもう、それを分かっておりますから、絶対われらは統一しなきゃだめだと。自主統一という言葉も、その時覚えました。

—で、そういう先輩方は結局どうなったんですか？ その後は。

夫：そのまま山に登って、ゲリラ作戦に変わって、結局はみんな首切りされたり。殺されたり。そして、うまく、運よく、また日本とか、逃れた人は、生きておられるけど、実際はもう年で亡くなって、いないです。

—あ、日本に来られた先生っていうのもご存じ？

夫：うん、そんな人もおります。そうするから現場で、僕は直接味わったその経験として今、いろいろあの、みなさんの先生方に、おっしゃりたいことは自主というものが一番肝心だということ。もうひとつは、絶対自分の国は自分の国のその歴史を守り、また言葉もあるし、文化もあるし。何でもあるじゃないですか。風習もあるし、まあ持ってきた先祖の墓が眠ってる土地もあるのに、国土もあるのに、何で外国人に踏まれなきゃだめなの、外国人に支配されなきゃだめなの、という、その愛国心みたいなのが芽生えてきました。

——それ、少年団の組織はつくられたのは、だいたいいつぐらい？ やっぱり47年ぐらいからですか？

夫：47年の暮れごろから、[僕は]高学年です。何で言うたら僕は、日本から来たということ言葉ができないから、1年落されて。いっつも1年落とされました（笑）。自然にこれはもう、やむ得ないんです。あの、舌が回らないんですよ。

《人民委員会のもとで》

——あの、小学校の時に、軍国少年だったっておっしゃいましたでしょ。その、解放されたときに、日本がまあ、負けるわけではないと。それがどういうことで、そんなふうにあ国的な気持ちにこう、なっていかれたんですか？

夫：その時、日本とか、日本の植民地を嫌いで、みんな、日本とか中国、満洲、各地方に行っておった、その、ちょっと知識ある先輩方が、解放されたからいっせいに戻ったんです、^{さいしゅうとう}濟州島に。そう、今まで20人、いや20万人近い島民の人数が30万近くなっちゃった。そうしたら、産業も何もない、食料もない、そうして、もう生活にはすごく困難な状態でした。その時は。小っちゃいお腹でも、食べ物がなかったんです。そして、海岸べりに行って海産物を取り [食べていた]。

——そしたら、日本とかいろんなところから帰って来た人たちが教育に携わって。

夫：そう、教育の面に関わって、その、治安のいい、また人民委員会^(⑩-＊8)とか、そのものはあの、できたんです。[学校とは別に]そこで少年団が、組織ができた。

——なるほど。何人ぐらい、少年団が？

夫：いや、僕らはね、その各、分団、分団がありましたから。僕らの分団は自分のもう、^{タミン}担任の先生。その当時学校の、^{ソンセン}クラスの先生の家。あいつが米軍に近いから〈一同：へえー〉。李承晩に近いから。その親日派、^{チニルバ}日本を、その政策に近い人間という教育は受けました。

——指導してくださった方の名前とか覚えてはります？

夫：もうみんな亡くなってます。あの、名字だけは覚えてます。^{ヤン}梁氏とか、^{キム}金氏とか、^{ハン}韓氏とか。あの、ちょっとそれが、日本に来て、もうだいぶ（笑）、時間経って。ちょっと、記憶がちょっと。名字だけは、みな覚えてます。

——年から言うと、20代、30代ぐらいの方ということなんですか？

夫：そうです。20代ですよ、ほとんど。もともと咸徳ハムドク [の人]。

——小学校の先生のなかにそういう方がいらっしやった。

夫：ええ。

——咸徳の村にも人民委員会が

夫：あります。ええ。そして、その防衛団、その地域の治安を担当する青年団がありまして、その、日本軍の軍隊が学校に駐屯しておりましたから、悪いことしないように。もう、むちゃくちゃですけどね、あの時は。法というものがなし、社会的な混乱というのは、これはもう想像つかないぐらいです。権力があつたら誰でもという、それを、治安を確保するために、部落の青年らとその組織を守るためにやって巡回したり、何かあつたら行ってそれを応援したり。そんな状態です。

——夜学*⁵みたいなのもありました？

夫：야학이 있었어요 [夜学がありました]。僕はそこまでは行かなかったです。

——その時の運動でアメリカに対する反対とか、そういったことは、言っていました？

夫：アメリカというものはまさか、その李承晩の裏におるとは思っていなかったんです（一同：ああ）。

——村に軍人、アメリカの軍人が来たり。

夫：来ました。あの時はもう最初、軍人じゃなくて、一般のその宣教師という [の] でしょうか。そして、[済州島の] みな貧乏じゃないですか。着るもんも食べるもんもないから。アメリカのダブダブな残った服？ 体にも合わないそのキンキラキンの服。その服をみんなこう、教会に来る子どもらに配給して。基盤を向こうは作ったんです。

——お菓子とかは？

夫：お菓子もありました。양과자 절대 반대 [洋菓子絶対反対]*⁶（一同：爆笑）。

——じゃあ全然食べ……口に入れない？

夫：あ、口にも入れませんでしたし（一同：笑、へえー）。もう、食べるもんとも考えま

せんでした。

——でも食べてる、村んの中に食べてる子もいた？

夫：うん、[食べる] 人間もおります。

——少年団としては

夫：僕らはもう絶対 [反対]。組織的なもんもあるし、教育上そんなんは、だめだと。お前らはそれ下手にしたら、お前、精神まで抜ける、と言う。

4・3事件について

《4・3事件のはじまり》

——[蜂起が] 4月3日だってことは、事前に聞いておられましたか？

夫：いえ。それは分からない。絶対言わない。もう朝起きたら道には気配が違う。

——何か団体があったり？

夫：団体があって。小学校時の団体があったりして。連絡。[今のように] 携帯でああだ、こうじゃなく、こう黒い服を来て、角、角に立って警察が動いたら、こう、下にこう、ねずみみたいに掘って行って、今ねずみがどの辺に居てるから。こう言ったらなんですけど、警察を黒い犬。そして、軍隊は黄色犬と言って。暗号がそこにあるんです。行って、おったら「赤」と言ったら向こうが、ね、「黒」とか「白」とか。返事が一致しない限りは絶対それは敵ですから。暗号も連絡です。白、赤、春、と。冬。そのような暗号をその日に決まるんです。そしたら上のゲリラの、その指導部から今日の暗号はこれだ。

ほとんど明かりがないでしょ。ランプがひとつの生活の大きな、あの、パターンでしたから。僕も勉強する時はもうランプの下で勉強したし、そして学生らも一生懸命やりました、その時。暗い中でも。あの、ちょっとでも勉強して、やろうと言って。で、お母さんらは、その無知だったから、今まで騙さればっかしだったということで、子どもらには情熱を、学校に対して情熱がある。強かったんです。

そして、解放をして4・3事件が起きた。48年度ですか。4月3日です。で、武器というのは日本軍が捨てて行った、九九式くくしき^(④- * 15)で長いやつ。それで、手榴弾というものがないから、日本軍が隠して、あの、埋めて行った火薬を、缶詰缶に詰めて、火を

つけて爆発するような、そのような、みな指導部がやって。あの4・3事件に、僕は、はつきり分かるんですけど、咸徳ハムドクにおったんですけど、夜、いっせいに山に火がついて。烽火ボンフア、烽火ボンフアって。

—のろしですよ。

夫：ばーっと、いっせいにあがった。そうして、狙った、あの、ここだったら交番ですよ。その時は、[警察]支署チソです。何か所、狙って攻撃したんです。そして、いっせいに。その時は、農民は、あの李承晩イスンマンが、5月10日選挙があるということで、実際その選挙は朝鮮を分断するひとつの手段だと。アメリカのその傀儡政権をつくることだと言って、済州島民はいっせいに立ち上がった、ということが根本だし、そこに米軍がついて、後ろでいろんな工作をしたのは事実なんです。

で、それで僕が咸徳で勉強しておって、その事件がありまして。僕の祖母ちゃん、お母さんは咸徳には住めなくて、その自分の夫[の故郷である]旧左面徳泉里クジヤミョントクチョンリに行って。僕は勉強のためにお母さんの実家の方でおりました。それで解放の当時は日本も、その時は法律とかいろんなものが、完全になってないし、講和条約も結ばれてない時だから、後ろでいろんな、密航が盛んだったんです。そして僕が朝天中学校チョチヨン、第2期ですけど、その建物が、木造だったんですけど、日本からみんな[木材を]運んだ。

—木材？

夫：その[日本から運んだ]木材の中に、武器を隠して入れ[て済州島に持ってき]たという。僕は直接見てないんですけど、うん。あの、運んだという話は後で聞きました。それで朝天中学校チョチヨンがその辺鄙なとこに建ちました。

—それはいつごろのことですか？

夫：えーっと、40……、えっと1947年、咸徳国民学校の増築⁴⁾。その、咸徳国民学校が、日本軍が日本時代でつくった、その小っちゃいんですよ、木造で。そうするから学生は、もっと勉強さすために、結局、その横に新しく建てた建物が、あの人手が足りないから、生徒らにその瓦、運ばしたんです。重いのを、5枚とか、運ぶ力になる。そうしたら家が(笑)、ふらついて、あの瓦で、重さで、倒れちゃったんです。潰れちゃったんです。

4) インタビューの内容では日本から運ばれた木材が、朝天中学校、咸徳国民学校のいずれに使用されたのか、明確ではないが、後日、夫熙錫さんご本人に確認したところ、朝天中学校の校舎建設に使用されたとのことであった。

崩壊。その下で生徒らが何人か犠牲になりました〈一同：へえー〉。

——威徳支署も動いた？

夫：そうするから、ああ、なんか小っちゃい時の気持ちでも、ああ、なんかあったなあ、ということで。そうしたら今度は、警察がトラックで移動したり、あのアメリカの銃を持ってさ、威張りに来るんですよ。あの、農村らからね、この藁を積んだり、食料を炊くために薪^{まき}を、木を切って、藁を乾かしてから牛の糞を、冬の食料〔燃料？〕を確保するために、それを貯めているんですよ。その中に隠れる、僕も何回も隠れましたよ。そしたら、銃刀で刺すんですよ、人がおっても。ここに隠れてるんか〔と言って〕。そしてあの、オンドルがあるじゃないですか。オンドルは後ろ、部屋の後ろにあって、その横にそのオンドルの材料、積むところに隠れたりしました。こんな小っちゃいところに。その、捜索が来たら。そして、まあうまく逃れたというか、まあそんな経験はあるし。

《ビラ配布の方法》

夫：結局はもう警察襲撃、どこでどうした、どこでどうしたという、その、ビラが撒かれるんですよ。そして僕が中学なった時には、その帽子あるじゃないですか。今は帽子かぶって、中学生行くのが少ないんですけど、帽子にこのような紙切れを細かくして印刷したやつね。今だったらみんなコピーでやるけど。謄写版で書いたやつ。それを切ったやつを帽子にいっぱい詰めて、撒くんですよ。そしてあの、木とか角、角々のところに、貼る時に、あの、糊がないしね、壺とかさ、麦ご飯の壺とか、それをこうあの、〔米粒を〕溶かしてね、それを塗って貼ったりね。

——そのビラとかを、さっきつくられたって言われましたね。

夫：うん、ビラをね。自分でつくるんじゃないで、ちゃんとそれは組織的に、そう、配布。

——え、自分の名前も、書かれたんですか？

夫：あ、その、その前は、自分の名前〔を〕書いてました。

——それは、その来たビラに自分の名前足して、書いていたのですか？

夫：それは、最初は自分の名前を書き、書いて貼りました。

——それは、手書きですか？

夫：手書き。

——手書きのビラ。それが今度印刷のビラになる？

夫：ええ、印刷のビラになる。

——印刷したのが、来るんですか。

夫：来るんです。

——それは中学校に通われていたころ？

夫：もう中学1年の時に、まあ職責^{チクチュク}というかね、責任者がおる、そのグループの。お前は、今日は、例え[ば]、江戸川地区。江戸川でも中央があったり、そのホザキ[篠崎?]があったり。葛西があったり。そや、お前は、中央地区を担当。そしたら2,3人が今度はグループになって黒い服着て、帽子持って。その帽子的、その何て言ったら言いん?(笑) もう、風に飛ばんように、こう、その紐をくくって、手さげカバンみたいにやって撒くんですよ〈一同：へえー〉。

——あ、そこ行って？

夫：もう、その地区、地区。

——どこら辺まで行かれたんですか。

夫：もう咸徳^{ハムドク}だったら上^{ウツトンネ}の村とか、あの西^{ソツトンネ}の村。まあ、咸徳^{ハムドク}がちょっと大きい部落ですから。一区^{イルク}、二区^{イグ}、三区^{サムグ}があつて、お前は二区^{イグ}、お前は三区^{サムグ}っていう担当があるんですよ。朝なったらもう、雪が降ったみたいにビラが、夜の間。

——じゃあそのビラは、えっと誰かが持って、ひとつ、まとめて？ それはどうやって分かるんですか？ ビラが来るっていう。

夫：そのあの、責任者が来るじゃん。絶対その自分がどこで持ってきたとか、それは一切言わないです。これをお前らはどの地区に持ってきて。

——ああ、そしたら持ってきて、ああ。

夫：だから何班、何班はこっち。もう、セポ^{セポ}ってあるじゃん、細胞^{セポチョジク}。細胞組織^{セポチョジク}というもの

は、そうできてる。ですから自分の体ひとつでも、なん、何億のセツ、細胞がひとつに固まって体ができているのと同じで、その細胞組織って簡単じゃないです。そのかわり、その口は絶対。

それでもね、その、まあスパイがおるんですよ。アジト発見されたり、襲撃されたり、そして殺されたり、それも半端じゃないですよ。焼き殺されたり、女の人が殺されたらもう裸にして、大事なこと十文字にして切ったりして、石で埋めたり。もうそれは残酷で、口に出ません。首を切らなきゃ、お前アカ。自分の親父の首も切るんです。それもバサッと切れるから。普通だったらいいですよ。短刀だったらいいですよ。あの、日本刀みたいに一発で切れるもんじゃないんですよ。そして、切らなきゃお前もうアカ、ね、それ。

まあ、ある人はこんな、^{チョクボ}族譜があるんじゃないですか。あの戸籍謄本。そこで調べていなかったらお前も山に逃げた。アカだから。この代理に殺される。それから、あの、^{イルチョン}一寸 [寸は「親等」の意]、^{イチョン}二寸、^{サムチョン}三寸、^{サチョン}四寸、言うて。まあ偶数ね。なので^{サチョン}四寸は、みんなあの、兄弟があるじゃない [いここは兄弟関係のようなものだ]。^{ユツチョン}六寸とか^{バルチョン}八寸とか^{チルチョン}七寸、みな兄弟。で、^{ユツチョン}六寸の兄弟はみな殺しですよ。もう、同じ金^{キム}でも、お前は誰と同じだ。先生も例え [ば] ^イ李だったら、あ、^イ李の娘はみな連絡兵か。アカの娘だ。

で、そして僕が一番の先輩も^{ハムドク}咸徳、その、襲撃する時、望遠鏡持って、カービン銃ですよ。アメリカからあの、警官から奪った銃を持って、高いところでその、偵察してるの [を] 見て、お前ら絶対来るな、と。お前ら、まだまだ続いていかなきゃだめだから来るな、と。俺らが、やるから、という。それが、大先輩で、ええ男でしたけどね。あの、^{ノンオプハツキョ}濟州島の農業学校出身です (一同：ああ)。

——エリートですね。

夫：^{ハン}韓氏です。今から襲撃するから。近寄るなと (一同：ああ)。巻き込まれるから危ないと。

——何歳ぐらいまで、何歳ぐらいまで、あの、少年団ですか？

夫：大体 14, 5 ですね。

——小学生は何歳ぐらいからやるんですか。

夫：小学校はもう 11, 2 からはもう。

——じゃあ、小学校の高学年は大体みんな、それをやっていたのですか？

夫：それも全部じゃないです。そしてあの今、僕おっしゃった通り、部落、あの海岸部落5つがあるんですけど、そこにちょっと変わった人物らがおるんですよ。そして、野^{トウル}鹿^{サスム}、野の鹿^{ウリマル}。朝鮮語で言うたら、その集まりや。表看板では文学の集い、啓蒙をする〈一同：笑、へえー〉。そして集めて、集まって、まあ地下組織みたいなもんですよ。

——それは何人ぐらいなんですか？

夫：んー。約、15、6名。

——女性もいらっしゃったんですか？

夫：女もおったし。あ、女性も2、3人おりましたね。

——2、3人。先生もこれに入られていたんですか？

夫：うん、そう。僕は副責任者〈一同：おお、へえー〉。僕の先輩が責任者だった。お名前は……ホ、ホ・ヨヌン。^{チョチョン}朝天もおるし、^{ブクチョン}北村もおるし。^{シンファン}新興もおるし。

《疎開後の生活》

——それと、そのさっきあの、少年団の分団っておっしゃいましたよね。それとは関係はないんですか？

夫：いや、そこにも、みなその、つながりが出てきます。だから表には出しませんが、その時は李承晩の徹底した弾圧の中に、あの、できたひとつの組織ですし。その心ひとつにした人間、まあ日本だったら、ね、連判状みたいだね、血で自分らが絶対という。そしてあの、工作活動を徐々にしましたけど。まあ、済州島事件に対しては、まあそのようにして。

僕は^{ハムドク}咸徳^{トクチョン}において、教育上。自分の家は徳泉^{トクチョン}というところにありました。立派なそう、豪邸です。まあ部落でも一番ぐらいの建物でしたけど。そら、ボンボン育ちみたいなもんですよ。あの、自分〔夫熙錫さん〕のお母さんの実家に、勉強して、やる立場でしたけど。それで、5キロ以内のあの、以外はみんな、疎開せえ、という軍の命令が下りたのも知らなかったんです*7。それで後で見たら、みんな、疎開してると。そしたら僕のお母さんと、妹がおったんです。母と妹は他の部落。

——ああ、どこに行かれたんですか？

夫：金寧^{キムニョン}。そして僕は祖母^{ハルモニ}がおったんです。孫、かわいいから、そこに一人で〔咸徳まで〕下りてきたんです。それから〔祖母にとっては〕自分の姻戚^{サドン}の家。僕〔にとって〕は、あの外祖母^{ウエハルモニ}〔母方の祖母〕に、外家^{ウエガ}〔母の実家〕だけど、そして、孫のために来たから、どうしようもないんじゃないですか。それで、もう、年寄りばっかしのあの実家〔は〕、外家^{ウエガ}だし、どうしようもない。

で、それで、あの時、財産あるものは、みな警備隊〔が〕、李承晩の警備隊がもう片っ端からみな、もう焼きました。着の身着のままです。もう、背負^{しよ}ってくる〔と〕言ったってどんなにひとりの力で、背負^{しよ}えます？ そうして、そのもう、家がきれいに、行って見たら、あの、灰になってね。それで、あの1回はね、祖母ちゃんが「1回、なんか残って〔い〕るか、分からないから、ちょっと、こそっと行ってみようじゃないか」と。そして咸徳で山道^{ハムドク}を辿って、徳泉^{トクチョン}に行きました。行ってみたらもう、家はもう全焼で何もない。で、残ったのはあの食器、燃え残ったやつ〔食器〕をおんぶして、山道を降りてくる途中、警備隊に引っかけたんや。祖母ちゃんと〔一緒に〕。この荷物を置いて行くか、背負^{しよ}って行くか。どっちする？ 重いのにね、幼い、そんな小っちゃい体で、どんなに〔大変か〕。持っていく〔る〕のん嫌だから、もう、置いていくよと。

そして行ってみたら、6人捕まってました、山に。そして、そのあの、一個分隊長が「年をとったお婆さんとお前は、行ってそれを持ってこい」と命令してくれたんです。助かる、ひとつ〔の〕運命だったと思います。行ってみたら、置いた荷物がきれいに燃えて。灰になってるんです。祖母ちゃんが、〔警備隊のところへ〕行くのやめようと。そのまま咸徳^{ハムドク}に帰ろうと。で、その場で下りてきたんです。残った人間5、6名。みんなその場で銃殺、ね。そして助かったことが1回あります。そしてそれが1回。1回は咸徳^{ハムドク}で、下りてきたらみんな築城^{チュクソン} ④- * 18)。部落をゲリラに侵入されないように。濟州島が、石が多いから城〔城壁〕を。

——築城^{チュクソン}というやつですね？

夫：それを何日かけて、築城^{チュクソン}に動員されるんです。男、女、もう動ける人全部、動員されました。あの警察の支配にあつたし。それで一般民間人が作った民保団体^{ミンボ} ⑦- * 7) がありまして。そしてらもう、家宅捜査するんですよ。生きた人間はみな出て来いと。背負^チ子^ゲをかついで石を運んで、3週間ぐらい掛かったかな。城つくるの。で、出来て見張りをつくりました。そして連絡するものは紐で。こっちの見張りとかっちの見張りを紐でつないで。カラン、カランとあの、缶詰の缶をぶら下げて、うん、ぶら、ぶら下げ

て、ゲリラが来たら〈一同：へえー〉、引っ張るんです。カラン、カラン鳴る。そしたらゲリラが来ても入れないと。そして警察は警察で回るんです。そして、もう山も食糧がない、生きた者はみんな殺せ。動く者はみんな殺せ。

そうしたらね、道の塀。돌담이 있지 않아요? [石垣があるじゃないですか?] 人が、石垣にそのまま撃たれて、血がそのまま固まってる人とか。死んだ人を見るのが、もう一般的になりました。そして、咸徳に駐屯したんですよ。あの、軍隊というか警備隊が、学校にね。そしたら、5時になったら咸徳砂浜、学校の裏。咸徳の海辺なんですけど、あの、ふもと、海辺なんですけど。そこで夕方5時になったら、毎日殺すんです、暴徒を。

——5時？ 夕方の5時？

夫：夕方5時です。もう鉄砲の音が、みんな鈍いんです。ピュー、あの飛んでいく音はビューっとして、音がするんですけど、人に当たった音はブスッ、ブスッと鈍い、鈍い音です。それで、民保団にはこの人の息子を、山に上ったから、この婆ちゃん殺せ。民保団はみな竹槍じゃないですか。鉄砲は持たさない。刺すんです〈数名：いやあ〉。で、先生にぐるっと回って、この人ら竹で刺してみなさいよと〈一同：うわー〉。一発で死ぬはずがないじゃないですか。で、死ぬまで刺すんですよ。刺さなきゃあかん。

——それは、軍隊がその民保団の人にやらせる？

夫：やらせるんです。やらなきゃお前はアカ。そう。もう、親子みたいな人でもやらなきゃあかん。だから、そのイデオロギー—というか、思想—というか、そのようにその、怖いものがないということは、分かりました。

そして、僕は中学2年の時でしたっけね。ちょっと落ち着いたんですよ。ゲリラがまあ、あの、だんだん力がなくて、あの、掃滅段階に入った時、その、[旧左邑]松堂にあるそこに、あの祖母ちゃんと自分の土地が徳泉にあるから、近いからそこに移ったんですよ。そしたらもう、豚小屋ですよ。

そこに住んでる時に、僕、咸徳で[に]訪ねて行ったんですよ。行って、帰りです。山道を降りて来とって、若くても、ちょっと一服しようって言って、先輩と。先輩ちょっと足が悪いから、あの、どこも行かれない人だったんですけど。一服しておったら、あの、槍持って、鉄砲持って、両方からばーっと5、6人が10、両方やったら12、3人ですよ。あれ山のゲリラです。パルチザンです〈数名：ありゃ〉。で捕まっちゃったんです。見たらもう、履物が履物じゃないです。みんなあの、皮でね、こんな、やったり。

あの済州島はその、火山島ですから、いろいろその釜이 있어요 [林があります]。木

がね、ちょっと植えてるから。あの、オアシスみたいなどこあるんですよ。そこの山に連れて行かれて。行ったら、裸になれって言うんです。何で裸にならなきゃならないのか。お前は李承晩の^{チヨルゲ}下っ端だ〈一同：へえー〉。中学生でしょ。革命家が多かったんですよね。万歳して死んだ人間も多いし。それで、僕のその先輩は一緒に行って。

そこで僕も助かる運命だったのか。お前は帰すから、絶対言うなよ。口に出すなど。自分らに会ったこと言うなど〈一同：へえー〉。

——なぜ帰すということになったんですか。

夫：前は、僕、言ったんです。僕の兄貴も地区委員長やっとして、地区の委員長。その時は各地区委員長とか細胞的に、^{トクチョン}徳泉地区の委員長。

——ああ、その党^{クン}〔南労党〕。

夫：党^{クン}です。

——兄さんですか？

夫：うん。その兄貴の影響があったと思います。そしたら山に隠れとったらトラック、警察官2台乗せてきて、包囲して捕まって、死んだ日も、死体もどこでどうなったか、分からない。兄貴もひとりおります〈一同：ええ〉。

——お兄さん、お名前は何て？

夫：プ・ヒスン。熙順、ヒ、スンです。そしてそれ^{ミルゴ}密告した人間は、大阪で会いました〈一同：へえー〉。でもう、その時は僕、日本に逃れて来たんですけど、登録〔外国人登録証〕もないし、何もない、できない立場だったから、黙ってそうしましたけど。あの、うまく逃げきれたんですよ。そのように同じ部落におってでも、スパイがいっぱいおったんです。あの、正直なこと言ったらお前は助けてやると。そのようにして助かった人間が多いんじゃないでしょうかね。

今ね、こう言って、あの、僕言ったら、お前はアカだからそんなこと言えるって言える人が多いと思いますが、今、日本で総連と民団と別れてるじゃない。組織がふたつ。その民団の連中らはみんな軍隊も行ったこともないし、みんな日本に、その金持ちが、親戚らがおって、みな密航に来て、今は大韓民国の忠誠を誓って、今、働いてるんですけど。その辺やら怖いですが、僕にしたら。僕は幻滅しました。その4・3事件で、家族も全部ほとんど、親戚もみんな殺された。財産もない。ただ生き残って、あの、日本に

来て今こうやって、先生らみなさんと会えて、幸せですけど〈一同：ええ〉。

——さっき、目の前で捕まった時、もうひとりおられた先輩はどうなった？

夫：もう殺されました。バラバラ。銃で撃てないんですよ。音[が]したら、あちこち、もう、ばれるから。だからお互いに残酷なことしたんです。ゲリラがみな正しいことやったと言えません。ものがないから。

（以下、次号）

* 本研究は科学研究費補助金（課題番号 24520782）の助成を受けたものである。

【用語解説】

* 1 百済と呼ぶ町の名

1889年、大阪南部に位置する住吉郡の今林村、桑津村など4村が合併し北百済村、同じく鷹合、砂子など4村の合併で南百済村が誕生したが、1925年に大阪市住吉区に編入されたのを機に行政名としては消滅した。現在でもJR百済駅（貨物）、百済バス停留所、南百済小学校、百済駅前交差点、隣接する生野区林寺の百済本通商店街などに名を残している。百済の地名は、7世紀後半から8世紀初頭にかけて朝鮮半島からの渡来人が現在の大阪市東南部に多く居住し、7世紀には百済郡が置かれたことなどの歴史的経緯との関連が指摘される。

* 2 疎開・引き揚げ（再掲）

戦争末期の空襲を避け、大阪から郷里に疎開した済州島出身者はかなりの数に上ると思われるが、正確な数字は分からない。一方で1945年3月、大本営は「本土決戦」に向けて、アメリカ軍攻撃の可能性が予想される済州島に3個師団5万人以上の将兵を派遣し、済州島民が戦乱を避けるため、朝鮮半島本土に疎開するという状況もあった。解放後の済州島への帰還者数は約6万人と見積もられており、公式統計上の済州島人口は、1944年が219,548人、1946年には266,419人となっている。

* 3 三別抄

高麗時代、武臣政権期につくられた私兵組織。1196～1258年に政権を掌握していた崔氏により組織された。左別抄・右別抄・神義別抄からなる。もともと盗賊を取り締まるためにつくられ、のちには首都の守備にもあたった。13世紀、モンゴルの侵攻を受けた高麗王朝の降伏後も三別抄は降伏を拒否し、珍島のちには濟州島へ根拠地を移して抗蒙運動を続けた。1273年モンゴル・高麗連合軍に滅ぼされた。

* 4 米軍政下の米穀供出

解放後、南朝鮮を占領した米軍政は1945年10月に植民地期の食糧供出制度と配給制度を廃止した。しかし米穀市場自由化と海外在留者の帰還による食糧需要の増大は需給のバランスをくずし、あわせてインフレの急激な進行と、地主・米穀商の投機的な買い占め、売り惜しみが、深刻な食糧不足をもたらすことになった。結局、米軍政は翌1946年1月に供出・配給制度を復活させざるを得なくなり、1946年生産米穀の供出実績は目標の82.9%に達した。しかし市場価格よりはるかに低い価格での供出強要によって、米軍政に対する農民の不満は高まった。

* 5 夜学

植民地朝鮮で児童の就学率が20%を超えるのは1935年前後、1942年でも50%を超えていなかった。公教育から排除された貧困層の児童・青年・成人を対象に多くの夜学が開かれ、初歩的教育を行った。本土同様、濟州島でも民族主義的な有識者や青年が講師を務めたほか、多くの社会主義活動家も夜学運動に積極的に関わっている。就学児童数が急増する解放後も、労働者・農民などを対象に様々な社会運動の一環として継続された。

* 6 洋菓子反対運動

南朝鮮では1947年初め、解放後アメリカから大量に輸入されたチョコレートやキャンディーが国内産業に打撃を与えるばかりでなく経済的浪費であるとして、左右を問わず社会経済問題として認識されるようになった。濟州島では1947年2月10日、濟州市内の中高校生千数百名が参加して洋菓子を排撃する組織的デモが行われた。「朝鮮の植民地化は洋菓子から防ごう」というスローガンが掲げられ、反米意識の強まりを見せている。濟州島全島の学生に波及した洋菓子反対運動が、1947年3・1節示威運動と発砲事件に与えた影響も指摘されている（『済民日報』四・三取材班〔文京洙・金重明訳〕『濟州島四・三事件』第1巻、新幹社、177～180頁、など参照）。

*** 7 海岸へのひっこし（疎開, 再掲）**

「討伐隊」が1948年10月より着手した「焦土化作戦」では、海岸線から5キロメートル以上離れた中山間地域を「敵性地域」と見なして、徹底的に「掃討」する方針がとられた。中山間地域の住民は海岸地域に強制疎開させ、残った者は「暴徒」と見なして殺害、家屋も放火したため、このとき済州島では10数カ所の集落が完全に消失してしまった。